

横浜市 街路樹ハンドブック

Yokohama's Urban Tree Handbook

目次

街路樹ハンドブックについて	
紹介している街路樹44種	

横浜みどりアップ計画とは	2-3
街路樹による良好な景観づくりとは	4-5
樹木の見分け方	6-8

樹木名で検索 9-33

アオギリ	9	シラカシ	22
アオダモ類	9	センダン	22
アキニレ	10	タブノキ	23
アラカシ	10	トウカエデ	23
イチョウ	11	トチノキ類	24
イロハモミジ	11	ナツツバキ	24
エンジュ	12	ナンキンハゼ	25
オガタマノキ	12	ハクウンボク	25
カツラ	13	ハクモクレン	26
カリン	13	ハナノキ	26
キンモクセイ	14	ハナミズキ	27
クスノキ	14	ヒトツバタゴ	27
クロガネモチ	15	ヒメリンゴ	28
クロマツ	15	プラタナス類	28
ケヤキ	16	ホルトノキ	29
コブシ	16	マテバシイ	29
サクラ類	17	メタセコイア	30
サルスベリ	17	モミジバフウ	30
シダレヤナギ	20	ヤマボウシ	32
シナノキ類	20	ヤマモモ	32
シマサルスベリ	21	ユリノキ	33
シマトネリコ	21	ワシントンヤシモドキ	33

コラム

街路樹のサクラ	18-19
街路樹の紅葉	31

街路樹とは ～街路樹の主な役割～	34-35
------------------	-------

横浜の代表的な街路樹の歴史	36
---------------	----

街路樹ハンドブックについて

街路樹は道路を彩る最も身近な緑の一つであり、都市の景観を形成しています。

本ハンドブックは、市民の皆さんに街路樹の魅力を伝え、その種類を見分ける一助となればと作成しました。

市内の街路樹（高木）は、台帳の上では、80種類以上あります。このうち、本ハンドブックでは上位30種類の街路樹のほか、特徴的な14種類を掲載しました。この44種類で市内の街路樹の多くを見分けられます。また、コラムとして街路樹の機能や歴史、桜の花や紅葉などについても紹介しています。ハンドブックに用いた並木写真は、横浜市の代表的な景観を掲載しています。

この街路樹ハンドブックを持って、散歩に出かけてみませんか！

本ハンドブックで紹介している街路樹44種

落葉広葉樹

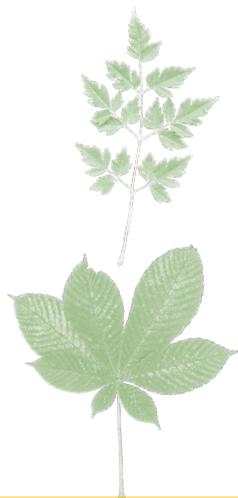
アオギリ
アオダモ類
アキニレ
イロハモミジ
エンジュ
カツラ
カリン
ケヤキ
コブシ
サクラ類
サルスベリ
シダレヤナギ
シナノキ類
シマサルスベリ
センダン
トウカエデ
トチノキ類
ナツツバキ
ナンキンハゼ
ハクウンボク
ハクモクレン
ハナノキ

ハナミズキ
ヒトツバタゴ
ヒメリンゴ
プラタナス類
モミジバフウ
ヤマボウシ
ユリノキ



常緑広葉樹

アラカシ
オガタマノキ
キンモクセイ
クスノキ
クロガネモチ
シマトネリコ
シラカシ
タブノキ
ホルトノキ
マテバシイ
ヤマモモ



針葉樹・ヤシ類

イチョウ
クロマツ
メタセコイア
ワシントンヤシモドキ



横浜みどりアップ計画

計画の理念

横浜市は大都市でありながら、緑豊かな自然環境が今なお多く残されています。

「横浜の緑を次世代の子どもたちへ引き継いでいきたい」という市民の思いを形にしたのが「横浜みどりアップ計画」です。

緑豊かな環境を次世代へと引き継ぐため、財源の一部に「横浜みどり税」を活用し、地域の特性に応じた緑を創出・育成。緑とともにある暮らしの実現に取り組んでいます。計画では、「3つの柱」と「効果的な広報活動」を重点的に推進しています。



横浜みどりアップ計画

横浜みどりアップ 葉っぴー

柱1 市民とともに次世代につなぐ森を育む



緑地保全制度による新規指定
羽沢町具行特別緑地保全地区(神奈川区)



園路の整備
(港南区)



森のネイチャーゲーム
(瀬谷区)



道路沿いの草刈りの実施
杉田坪呑緑地(磯子区)



保全管理計画フォローアップ研修
柏町市民の森(旭区)

柱2 市民が身近に農を感じる場をつくる



水田の暗きょ排水の整備
(青葉区)



収穫体験農園でのナシ狩り
(緑区)



サツマイモの定植
(保土ケ谷区)



みなとみらい農家朝市
(西区)



横浜レンガと連携した「おいも万博」
における街なか収穫体験の実施(中区)



柱3 市民が実感できる緑や花をつくる



北寺尾六丁目サムエル公園
(鶴見区)



港北小学校植樹
(港北区)



緑花による魅力ある空間づくり
港の見える丘公園(中区)



街路樹による良好な景観づくり
大岡川プロムナード(南区)



地域緑のまちづくり
柏尾町地区(戸塚区)

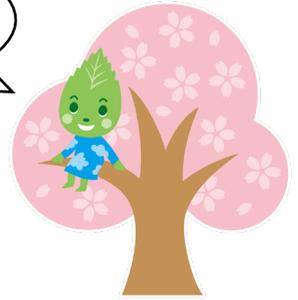
街路樹は
柱3の取組だよ。



横浜みどリアップ計画 街路樹による良好な景観づくり

駅周辺や各区の主要な路線を中心に、多くの市民の目にふれ、街並みの美観向上に寄与する街路樹を良好に育成します。また、地域で愛されている桜並木等の再生を行います。これらを通して街路樹による良好な景観づくりを進めます。

みどリアップ計画では、きれいな形に剪定したり、桜を植えたりするお手伝いをしているよ。



美しい街並みつくる取り組み



美しく樹形をととのえた街路樹

街路樹は、樹木の種類や場所にあった樹形に剪定することが大切です。

計画の対象路線では、目標にする樹形を決めて、剪定しています。



目標管理樹形図

地域で愛されている並木を継承する取り組み

桜並木など地域で愛されている並木を再生しています。地域の皆様と計画をつくり、美しい並木を次世代につなげていきます。

どんな桜がいいか、みんなで考えたよ!



石崎川プロムナード(西区)



港南桜道(港南区)



環状4号線(緑区)

横浜みどりアップ計画

横浜みどり税を活用して
サクラ並木の再生を
行いました。

〇〇通り

並木の再生事業のPR看板

主な並木の再生事業実施箇所

区名	場所	更新前	更新後
西区	石崎川プロムナード	ソメイヨシノ	オカメザクラ、ヨコハマヒザクラ
中区	本牧通り、本牧桜道、谷戸坂	ソメイヨシノ	ソメイヨシノ、コシノヒガン
中区・南区	大岡川プロムナード	ソメイヨシノ	ジンダイアケボノ
港南区	港南桜道	ソメイヨシノ	ヨウコウ
保土ヶ谷区	月見台	ソメイヨシノ	ウミネコ
緑区	環状4号線	ソメイヨシノ	ヨウコウ
青葉区	あざみ野	ハクウンボク	ヤマボウシ
戸塚区	柏尾川プロムナード	ソメイヨシノ	ジンダイアケボノ
栄区	いたち川プロムナード	ソメイヨシノ	ジンダイアケボノ、ヨウコウ、ウミネコ

樹木の見分け方

ハンドブックでは、高木の見分け方を紹介をしています。
紹介する高木はアイウエオ順で掲載しています。

幹の特徴

縦筋、横筋、短冊状の凹凸や模様があるもの、表面が滑らかなもの、樹皮の剥がれ方による模様など様々な特徴があります。



縦筋



横筋



滑らか



まだら状



短冊状

葉の特徴

小葉に分かれる「複葉」と分かれぬ「単葉」があるほか、枝のつき方や縁のギザギザなど様々な特徴があります。

① 葉の形



・不分裂葉
葉に切れ込みがない単葉



・分裂葉
葉に切れ込みが入る単葉



・掌状複葉
小葉が手のように放射状に1枚の葉をつくる



・羽状複葉
小葉が羽のように並び1枚の葉をつくる



・特殊
針のような細い葉
針葉樹の仲間の葉

② 葉のつき方



・互生
葉が1枚ずつ、互い違いにつくこと



・対生
2枚の葉が対になってつくこと



・はね状
葉が羽のように並んでつくこと

③ 葉縁



・全縁
葉の縁がなめらかで、ぎざぎざがないこと



・鋸歯縁
葉の縁がギザギザしている
(鋸歯を持つこと)

④ 落葉樹、常緑樹

・落葉樹…冬に葉がすべて落ちる

・常緑樹…一年中、葉をつけている

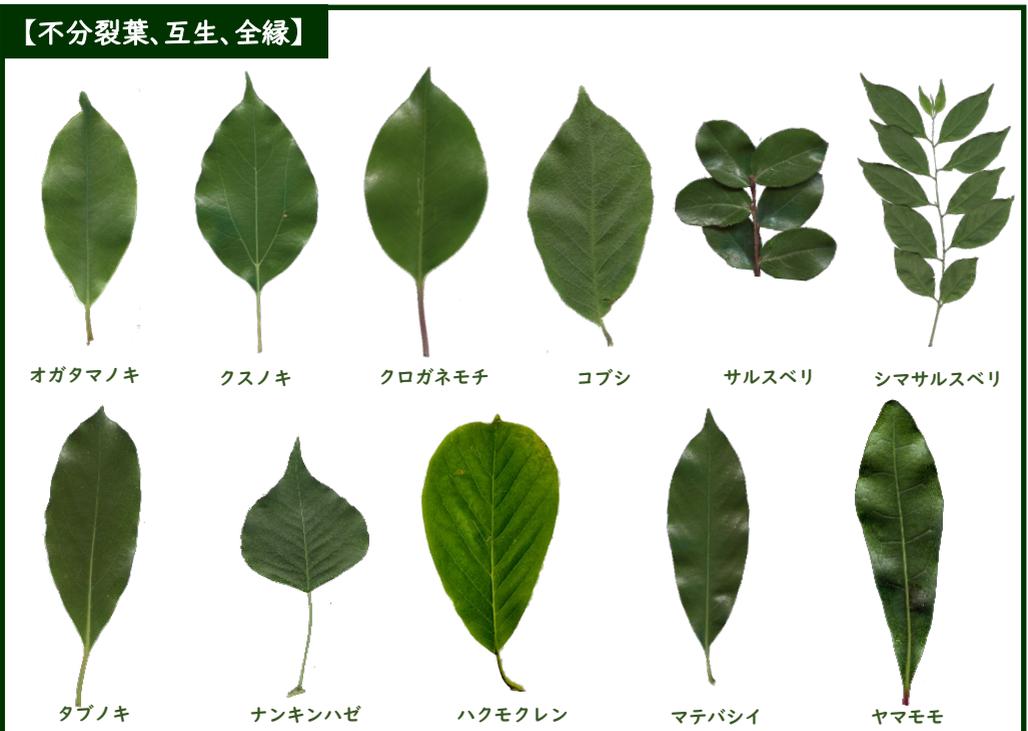
※常緑樹の方が落葉樹より、葉が厚く、てかてかしている

特徴別の葉の紹介

【不分裂葉、互生、鋸歯縁】



【不分裂葉、互生、全縁】



【不分裂葉、対生、全縁】



キンモクセイ



ハナミズキ



ヒトツバタゴ



ヤマボウシ

【分裂葉、対生、鋸歯縁】



イロハモミジ



トウカエデ



ハナノキ

【分裂葉、互生、鋸歯縁】



プラタナス類



モミジバフウ

【分裂葉、互生、全縁】



アオギリ



ユリノキ

【掌状複葉、互生】



トチノキ



ベニバナトチノキ

【羽状複葉】

【互生・全縁】

【対生・鋸歯縁】

【対生・全縁】

【互生・鋸歯縁】

【特殊】



アオダモ類



エンジュ



シマトネリコ



センダン



メタセコイア



イチョウ



クロマツ



アオギリ



神奈川区 国道1号

◆切れ込みが入った大きな葉が特徴。
樹皮は若い幹は緑色を帯び、なめらか。
7月ごろに黄色の花を咲かせるほか、秋になる実の付き方も独特。
南方の樹木で沖縄や中国に自生している。
市道での街路樹としての植栽は少ない。

特徴

葉の長さ
15~30cm



花(6~7月)



実(9~10月)



アオダモ類

(ヤマトアオダモ・アラゲアオダモ)

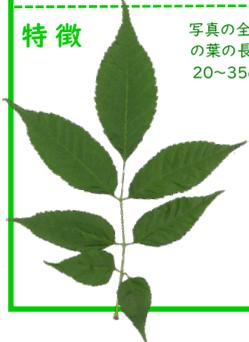


中区 ベイスターズ通り

◆野球のバットに使われる樹木。本州から九州の冷温帯に自生する。羽状複葉の葉で小葉は先がとがる。樹皮は滑らか。
街路樹では稀だが、中区のベイスターズ通りに横浜ベイスターズが1998年に日本一となったことを記念して設置されたモニュメント周辺に数本植栽されている。

特徴

写真の全体の
葉の長さ
20~35cm



花(4月)



「アオダモ」とともにある
優勝記念モニュメント「煌」

アキニレ

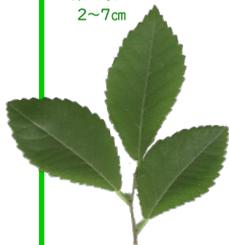


中区 馬車道

◆秋に花が咲き実がなるニレの仲間。春に花が咲くハルニレ(寒冷地に多い)もある。葉の形が左右非対称。互生で鋸齒がある。樹皮は、表面が小片やウロコ状にはがれる。関東南部以西の河原や海岸にみられ、市内でも多く植栽されている。

特徴

葉の長さ
2~7cm



葉は赤や黄色
に紅葉する



花(9月)柱頭に白毛が見られる



紅葉と種子(11月)

アラカシ



都筑区 牛久保中川線

◆どんぐりが実る樹木。カシ類で荒々しいからアラカシと呼ばれている。仲間のシラカシと比較して、葉の幅が大きく卵形をしているほか、葉の前半分に鋸齒があるのが特徴。樹皮は成長とともに縦に筋が入る。身近な里山に見られる。

特徴

葉の長さ
7~15cm



花(4月)



どんぐり(殻斗に横しま模様がある)





イチヨウ



中区山下公園通り

◆ 葉はイチヨウ型という特徴的な形で、秋にきれいに黄葉する。強い剪定が多いと葉に切れ込みが多くなる。
雄株と雌株があり、雌株はぎんなんが実る。最近では実のならない雄株が植栽されている。市内で一番多い街路樹。

特徴



葉の長さ
4~8cm

紅葉した葉



雄花(4月)



実(10月~12月)

イロハモミジ

◆ 秋の紅葉が魅力のモミジの仲間。黄色や赤色に紅葉する。葉は5裂から7裂にする。プロペラのような種子も特徴的。樹皮は成木では縦に浅くさける。

公園や庭木などで一般的。街路樹では稀で市内ではあまり植栽されていない。



都筑区 センター北駅周辺

特徴



葉の長さ
4~7cm

葉は赤や黄色
に紅葉する



実(10月~12月)



エンジュ



中区伊勢佐木モール

◆中国原産。中国では立身出世の縁起木として植えられていることが多い。

小さな葉が羽のように並んで1枚の葉を構成している(羽状複葉)。小葉の葉先はとがるのが特徴(ニセアカシアはくぼむ)。7月中旬ごろ白色の花を咲かせる。

特徴



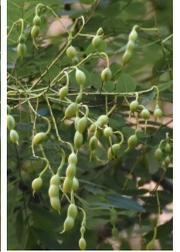
写真の全体の葉の長さ
15~25cm



【参考】ニセアカシア
小葉の先がくぼみ丸い



花(7月)



実(10月)



オガタマノキ

◆千葉県以西の本州～沖縄に分布し、湿润な沿海地に見られる。招霊(おがたま)の木が語源とされ、古くから神前に枝が供されている。葉は全縁で葉先が短くつき出ている。常緑樹では珍しく花がきれいな街路樹。花は2月から咲き、芳香がある。



中区北門通り

特徴



葉の長さ
6~12cm



花(2~3月)



カツラ

◆ハート型の葉が特徴。若い枝や徒長枝では卵形のような葉も現れる。落葉後の落ち葉は甘いカラメルのような香りがする。樹皮は成木では縦に裂け、はがれていく。北海道から九州の冷涼な溪流沿いに自生している。



中区海岸通り

特徴

葉の長さ
4~8cm



紅葉した葉
(黄色に色づくほうが多い)



実(9~10月)



カリン

◆大きな実、硬く小さなトゲのような鋸歯のある葉や独特のまだら模様で縦方向のうねが入る樹皮が特徴。中国原産。3月下旬には、ピンクの花が咲く。大きな実は6月ごろから見られ、12月ごろには黄色く色づいている。青葉区など一部で植栽されている。



青葉区奈良

特徴

葉の長さ
4~8cm



実(5月下旬)



実(12月)



中区伊勢佐木モールにも

キンモクセイ



中区 海河道

◆秋には甘い香りがする花を多数咲かせる。中国原産。葉はかたい質感で、葉脈がへこんで、縁が波打つのが特徴。樹皮は特徴的で、菱形や縦にさけた模様が目立つ。日本のキンモクセイはほとんど雄株しかないため、通常、実は見られない。

特徴



花(10月)

クスノキ



中区 栄本町線

◆太い葉脈が3本に分かれ、葉先はやや伸びてとがるのが特徴。葉は全縁で互生する。樹皮はコルク層が発達し縦方向に割れ目が入り、短冊状にはがれる。樟脳(しょうのう)がとれ、昔から防虫剤などに利用されている。

特徴



花(4月)



実(11月)



クロガネモチ



中区 常磐町通り

◆秋に赤い実が密集して実るのが特徴。鳥が積極的に食べないため、赤い実が目立つわりに長期間見られる。葉には目立つ特徴はない。樹皮は白っぽくて滑らか。

春には小さな花が密集して咲き、街路樹の花も養蜂に利用されている。

特徴

葉の長さ
6～10cm



実(秋～冬)



花(5月)

クロマツ

◆クロマツは樹皮が黒く、よく似たアカマツは赤っぽい。葉先にさわるとクロマツはとがっていて痛い、アカマツは痛くない。

市内の街路樹では珍しく、海沿いの旧東海道沿いなど一部地域のみで植栽されている。



金沢区海の公園周辺

特徴

葉の長さ
10～15cm



クロマツ

アカマツ



クロマツの樹皮



アカマツの樹皮



アカマツの球果(松ぼっくり)



ケヤキ

◆ほうき型の樹形で非常に大きくなる樹木。カーブを描く粗いギザギザの葉が特徴。葉は細長いが、徒長枝などでは、幅広いものが現れる。成木の樹皮はまだら状にはがれ、独特の凹凸ができる。最近、街路樹では、枝葉が広がりにくい品種も植栽されている。



西区けやき通り

特徴

葉の長さ
5~13cm



紅葉した葉



花(4月)



種子は枝ごと落ちる



コブシ

◆春に魅力的な白い花が一斉に咲く。その時一枚だけ葉も出るのが特徴。近縁のシデコブシと交配した品種も植栽される。

葉の先は突き出るほか、全縁で縁は波打つ。樹皮は表面は比較的滑らか。老木は縦に浅く裂ける。



港北区新横浜駅周辺

特徴

葉の長さ
7~17cm



黄葉した葉



花はソメイヨシノより1週間程度早く咲く(3月)



実の形も多様で、こぶしのような形に見えることも。



サクラ類

(ソメイヨシノほか)



南区大岡川プロムナード

◆ソメイヨシノが街路樹では一般的だが、近年は、並木の更新の際に、より丈夫な栽培品種が植栽されている。葉は鋸齒があり、葉先が長く伸びるほか葉の下の方や葉柄に蜜腺がある。樹皮は若い樹木や枝には横すじが目立つ。成木は縦に裂け、隆起する。

特徴

葉の長さ
6~15cm



オオシマザクラの実
他のサクラが近くであれば
ソメイヨシノも実をつける。



ヨウコウ(左)とオオシマザクラ(右)
サクラ類は品種が多く花の色も白、ピンク、赤、
緑色など多様。形も一重や八重など変化に富む。



サルスベリ

◆7月から10月にかけて花が咲き「百日紅」の漢字名のとおり、花期が長い。栽培品種も多く、花は紅色、白色、桃色がある。

鋸齒がない全縁の葉で、あまり目立った特徴はない。樹皮が特徴的で、滑らかでスベスベな質感をしている。中国原産。



都筑区 センター北駅周辺

特徴

1枚の葉の長さ
3~6cm



花(7月)



実(10月)

街路樹のサクラ



ソメイヨシノ (中区大岡川)

【開花時期】3月下旬

【特徴】一重:白~薄ピンク



ジンダイアケボノ (金沢区西芝)

【開花時期】3月中~下旬

【特徴】一重:白~薄ピンク



コシノヒガン (泉区いずみ野駅)

【開花時期】3月中~下旬

【特徴】一重:白~ピンク



ヨウコウ (港南区港南桜道)

【開花時期】3月中旬

【特徴】一重:ピンク



オオシマザクラ (中区福富町西公園周辺)

【開花時期】3月中~下旬

【特徴】一重:白



オカメザクラ (戸塚区戸塚駅周辺)

3月上~中旬

一重:ピンク

※開花時期は、目安です。各年の気候により、前後します。

様々な桜が街路樹でも見られます。
最近では、丈夫で小型～中型の桜が選ばれています。



ヨコハマヒザクラ(中区横浜公園)
【開花時期】3月上～下旬
【特徴】一重:ピンク



カンザン(中区関内桜通)
【開花時期】4月上旬
【特徴】八重:ピンク



ウミネコ(保土ヶ谷区月見台)
【開花時期】3月中～下旬
【特徴】一重:白～薄ピンク



アマノガワ(中区パ`イスタズ`通り)
【開花時期】3月下旬～4月上旬
【特徴】八重:白～薄ピンク



オオカンザクラ(中区関内桜通り周辺)
3月上～中旬
一重:薄ピンク



カンヒザクラ(中区関内桜通り)
2月下旬～3月上旬
一重:ピンク

※開花時期は、目安です。各年の気候により、前後します。

シダレヤナギ

◆枝が垂れ下がる樹形で葉が非常に細長いのが特徴。河川沿いなどに植えられているが、近年では、別の樹木に置き換えられることが多く、市内では減っている。河川沿いや地域の柳通りなど一部で見られる。樹皮は縦に裂ける。中国原産。

特徴



葉の長さ
8~13cm



西区 石崎川プロムナード

シナノキ類

◆市内では、オオバボダイジュや他のシナノキ仲間など様々なシナノキ属が植栽されている。オオバボダイジュは葉が大きく、シナノキは葉の裏の葉脈に毛の塊があるのが特徴。都筑区ではセンター北駅付近にオオバボダイジュ、センター南駅は他のシナノキの仲間が植栽されている。

特徴

葉の長さ
7~18cm



オオバボダイジュ



オオバボダイジュ



シナノキ



オオバボダイジュの
花(6月上旬)と実(8月上旬)



都筑区 センター北駅周辺



シマサルスベリ



西区 高島一丁目付近

◆サルスベリに似るが、葉は葉先が長くとなるのが特徴。樹皮も、同様に滑らかでスベスベしており、サルスベリより白色が多い。

幹は直立し、サルスベリよりも大きくなる。サルスベリに混ざって植栽されていることもある。屋久島や奄美群島の山地に自生。

特徴



1枚の葉の長さ
5~10cm



花は白色(7月)



実(10月)



シマトネリコ



中区 山下公園中央口交差点周辺

◆初夏に白い花を多数つけ、樹木が白い花に覆われるくらい目立つほか、一斉につけた実も白く目立つ。色々な場所に植栽されているが、しばしば、周辺で野生化する。

羽状複葉の葉で常緑樹なのが特徴。樹皮は平滑で成木はまだら状にはがれる。

特徴

小葉の長さ
3~10cm



花(6月~7月)



実(8月~11月)



シラカシ



都筑区 センター南駅周辺

◆どんぐりが実るカシの仲間。関東地方に多く、樹林地のほか、公園、家の外構など様々な場所で見かける樹木。

葉は細長く鋸歯がある。樹皮は滑らかで、成長とともに縦に筋が入る。

特徴

葉の長さ
7~13cm



実(堅果)は小型



センダン



中区 中華街大通り

◆一つの葉が2段階に分かれる2回羽状複葉の形を取るのが特徴。樹皮は縦に裂け、筋が見える。花は、白と紫の小さな花が葉の元にまとまって咲く。強い剪定の翌年は花がみられないこともある。主に西日本や沖縄に自生している。

特徴

小葉の長さ
3~6cm



花(5月)



実(10月)



タブノキ

◆海岸の常緑樹林を構成する代表種。
ペリー来航時の「横浜上陸」にも書かれた
「たまくすの木」は本種（現在の横浜開港資料館
の中庭にある）。葉先に近い部分で葉の幅が
最大。裏面は白っぽい（よく似たマテバシイ
は黄色っぽい）。海岸沿いの街路樹に多い。



磯子区 新磯子町

特徴

葉の長さ
8~16cm



ウラ側



実(6月)



トウカエデ



中区 太田町通り

「唐楓」の名前の通り、中国原産。秋に赤
や黄色に紅葉する。葉は3つに裂ける。

剪定で葉の形が変わり、剪定が多いと
鋸歯が多く、裂け方も大きくなるといわれて
いる。種子は羽のような形をとる。剪定があ
る街路樹では花や実はできにくい。

特徴

葉の長さ
3~9cm



紅葉した葉



実

トチノキ類



都筑区 センター北駅周辺区 (ベニバナトチノキ)

◆トチノキの方が大型になる。ベニバナトチノキはヨーロッパの「マロニエの木」の交配種。葉は5枚~7枚の小葉が合わさったものが1枚の葉で、手のひらように広がる。また、ベニバナトチノキは、葉の鋸歯が粗い。

特徴



トチノキ
中央小葉の長さ
20~40cm

ベニバナトチノキ
中央小葉の長さ
15~30cm



トチノキの花(5月) ベニバナトチノキの花(4月)

ナツツバキ



都筑区 センター北駅周辺

◆ツバキの仲間の落葉樹。夏に白い花を咲かせる。

葉の表面は葉脈がへこんでシワがよく目立つ。サルスベリのようにスベスベした樹皮も特徴。市内の街路樹では少なく、見られる場所は限られる。

特徴



葉の長さ
5~11cm



花(6月)



実



ナンキンハゼ

◆中国原産。秋には黄色から赤色の紅葉も鮮やかで楽しめるほか、ロウ質に覆われた白い種子も目立つ。

丸く葉先がとがった葉が特徴的。葉や枝が傷つくと乳液が出る。樹皮は成長とともに縦方向に割れ目が入り短冊状に裂けていく。



中区 横浜公園周辺

特徴

葉の長さ
4~10cm



紅葉した葉



花(7月)



実(11月)



ハクウンボク

◆5月ごろに名前の由来のように白い花が雲のようにたくさん咲く。北海道から九州の冷温帯に自生している。

葉はうちわのような丸形で、先端は突き出る。葉の先半分に鋸歯がある。樹皮は縦方向に浅く裂ける。



東筑区 牛久保中川線 中川駅周辺

特徴

葉の長さ
6~20cm



花(5月)



実



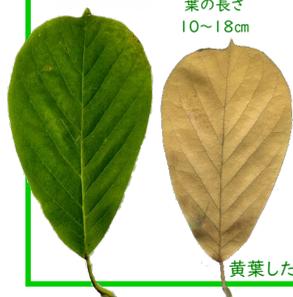
ハクモクレン

◆中国原産のコブシの仲間。コブシと違い花は半開きで咲き、広がった際もコブシより大きく見える。花が終わると葉が出はじめる。葉はコブシより大きく、葉先が幅広くなり、先端は短く突き出るのが特徴。樹皮は白っぽく平滑。

特徴



中区伊勢佐木モール



葉の長さ
10~18cm

黄葉した葉



花(3月)



実



ハナノキ

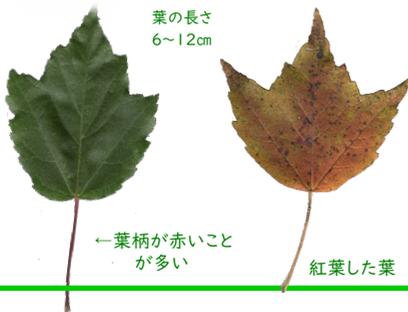
◆3月中下旬に咲く赤い花が名前の由来。日本固有種で、自生地では天然記念物に指定されている。

葉が3つに裂けトウカエデに似るが、鋸歯がやや粗く、葉柄が赤いことが多いのが特徴。紅葉も魅力的。

特徴



都筑区県道102号線



葉の長さ
6~12cm

一葉柄が赤いことが多い

紅葉した葉



花(3月)



ハナミズキ

(別名：アメリカヤマボウシ)

◆栽培品種が多く、花色も赤や白がある。
北アメリカ原産で明治時代に日本がワシントンD.C.に送った桜の返礼として送られた木としても知られている。葉は対生で全縁。

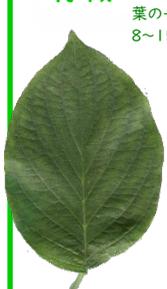
ヤマボウシに似るが、樹皮の縦しま模様や花(正確には苞:ほう)の先がへこむなど異なる。



都筑区センター北駅周辺

特徴

葉の長さ
8~15cm

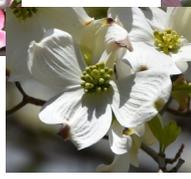


紅葉した葉



花(4月)

花は赤色や
白色がある



実



ヒトツバタゴ

◆「なんじゃもんじゃ」の木として有名。東海地方、木曽川流域、対馬に自生するが、数が少なく、絶滅危惧種となっている。

対生の葉で葉脈のへこみが目立つ。
細かい白い花が美しい。数は多くないが、市内各地で見ることができる。



中区ベイスターズ通り

特徴

葉の長さ
4~12cm



花(4月)



実(11月)



ヒメリンゴ



中区 南門シルクロード

◆小さなリンゴの実が印象的な樹木。樹皮は白っぽいのが特徴。春に白い花を咲かせる。

市内の街路樹では珍しく、中区や青葉区など一部で植栽されている。

特徴



葉の長さ
4~11cm



花(5月)



実(10月)

写真提供(ヒメリンゴ 花・実):清右衛門 佐々木 知幸



プラタナス類



都筑区中川駅周辺

◆プラタナス類は総称で、モミジバスズカケノキ、スズカケノキ、アメリカスズカケノキを含む。モミジバスズカケノキが市内の街路樹では一般的。大きな切れ込みのある葉、まだら模様のある樹皮が特徴。

特徴

葉の長さ
12~20cm



モミジバ
スズカケノキ



鈴をぶら下げたような花や果実がなる



ホルトノキ



中区みなと大通り

◆葉は細長くヤマモモに似るが、鋸歯があるほか、古い葉は赤くなって落葉し、年中どこかの葉でその紅葉した葉が見られることが特徴。在来種だが、江戸時代に平賀源内がポルトガルのオリーブ油のとれる樹木と間違えて、この和名になったと言われている。

特徴



花(6~7月)



実(10月)



マテバシイ



港北区 太尾新道

◆ドングリが実るブナ科の常緑樹で最も葉が大きい。在来種。

葉は葉先に近い部分で葉の幅が最大。裏面はやや金色を帯びている。樹皮は若い木は滑らかだが、成長とともに縦筋が入るように裂けていく。

特徴



花(6月)



実(10月)



メタセコイア

◆化石のみが知られていたものが中国で現生種として発見された珍しい落葉針葉樹。柔らかい細かい葉が特徴。樹皮は赤みを帯び、縦に裂ける。整った樹形で並木として植栽されると非常に印象的。紅葉も美しい。

特徴

小さい葉の長さ
1.5~3cm



紅葉した葉



都筑区 センター南駅周辺



実(11月)



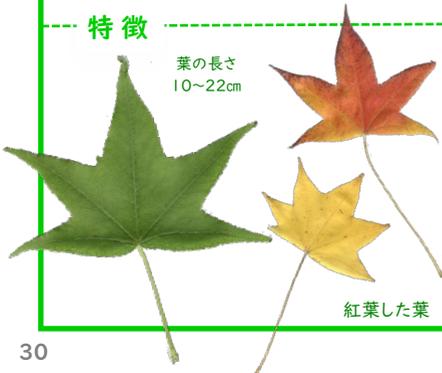
紅葉(12月上旬)

モミジバフウ

◆カエデの仲間と違い、葉は互生する。北・中央アメリカ原産。特徴的な5つに裂ける葉は、秋に美しく紅葉する。実もクリスマスリースなどの飾りに使われる。同じ仲間でも中国原産のフウがあり、葉が3つに裂ける。フウの街路樹は港南区で見ることができる。

特徴

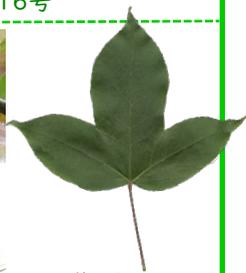
葉の長さ
10~22cm



紅葉した葉



実



フウの葉は3つにさける
(時に5つさける)



中区国道16号

街路樹の紅葉

晩秋は街路樹の紅葉シーズン。短い期間ですが、黄色や赤色に美しく紅葉し、各地で楽しめます。



(中区日本大通り)



(中区山下公園通り)



(都筑区センター南駅周辺)



イチヨウ

黄葉がきれいな街路樹の代表。葉は鮮やかに黄色に色づく。紅葉している期間も長く、各地で楽しむことができる。



ナンキンハゼ

黄色から赤色に美しく紅葉する。



(都筑区仲町台駅周辺)



(西区さくら通り)



(青葉区すすき野付近)



メタセコイア

秋には赤色に紅葉し、円錐状の樹形と合わさって美しい。



サクラ類

黄色や赤色ときれいに紅葉する。落葉が早くまとまって見づらい



モミジバフウ

秋には赤色に美しく紅葉する。黄色の葉も見られる。



(西区けやき通り)



(中区太田町通り)



(中区運河パーク周辺)



(旭区よこはま動物園周辺)



ケヤキ

黄色や赤色に紅葉する。



トウカエデ

黄色や赤色に紅葉する。



ユリノキ

黄色に黄葉する。



カツラ

黄色に黄葉する。甘いにおいも特徴



ヤマボウシ



中区 山手111番館前

◆在来種。葉は対生で全縁。側脈が弧を描くように長く伸びる。よく似たハナミズキとの違いは、樹皮がまだら模様に見えることや花の白い部分・苞(ほう)の先がとがること、開花が1ヶ月ほど遅いことなど。近年では、中国原産の常緑のヤマボウシも見かける。

特徴



葉の長さ
5~10cm



紅葉した葉



花(5月~6月)



実(9月~10月)



ヤマモモ



中区 新横浜通り

◆細長い葉が枝先に集まっており、剪定された枝や若木では鋸歯があることも。樹皮は大きな筋などはなく、あまり特徴がない。雌雄異株。雌の木は夏に赤い実が目立つ。公園に多い。似たホルトノキは紅葉した葉がどの季節でも混じるので区別できる。

特徴



葉の長さ
5~15cm



雄花(3月)



実(6~7月)

ユリノキ



中区 運河パーク周辺

◆別名でハンテンボクと言われるように、葉は特徴的な形をしている。英語ではチューリップツリーと呼ばれ、チューリップに似た形の花を咲かせるが、剪定が多い街路樹での開花はまれ。葉は秋に黄葉する。北米原産。日本には明治時代に持ち込まれた。

特徴



黄葉した葉

葉の長さ
10~20cm



花(5月)



実(10月)

ワシントンヤシモドキ



中区海岸通り 横浜税関前

◆背が高く、細長い幹が印象的な樹木。同属のワシントンヤシは幹が太く、区別できる。街路樹では珍しく、横浜税関前だけに植栽されている。海浴いなどに植栽され、みなとみらい地区では、日本丸メモリアルパークや運河パーク等でも見ることができる。

特徴



花(7月)



日本丸メモリアルパーク

街路樹とは

道路管理者が設置する「道路附属物」のひとつです。

安全かつ円滑な道路の交通の確保、その他道路の管理上必要な施設として、道路管理者が設置しています。街路樹による緑化には様々な機能があります。

街路樹の主な役割

景観向上機能



道路緑化に特有の機能です。

- ①修景
 - ②景観統合・調和
 - ③遮蔽
 - ④地域への愛着醸成
- 複合的に作用し、道路だけでなく地域全体の良好な景観をつくっています。

環境保全機能

環境を保全する機能があります。

- ①沿道住民の生活環境
 - ②野生動植物の生育空間
 - ③ヒートアイランド対策
- 様々な環境保全に寄与します。



緑陰形成機能

樹木の樹冠が上空を覆う※ことで、緑陰を形成し、寒暖や乾湿等の変化を緩和します。

歩く人や休憩する人、沿道周辺に快適な空間を提供しています。

※「キャノピー（天蓋）効果」と呼ばれています。



街路樹の主な役割

交通安全機能



道路施設として重要な機能です。

- ①遮光
- ②視線誘導
- ③交通分離
- ④指標
- ⑤衝撃緩和

安全で円滑な道路交通に役立っています。

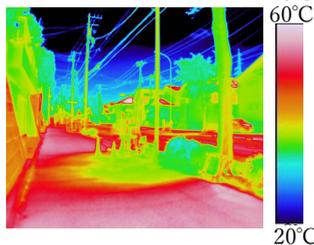
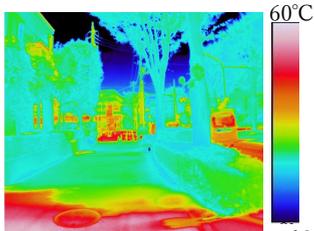
防災機能

異常気象時等に発揮される機能です。

- ①道路周辺からの飛砂や吹雪等による交通障害を防ぐ
- ②道路が風雨等に浸食されることを防止
- ③地震等の災害発生時に、火災延焼防止等に寄与

街路樹の剪定方法の違いによる暑熱緩和

平成21年度から「横浜みどりアップ計画」に基づいて、各樹種の持つ樹形を生かしつつ、一定の大きさに維持する街路樹の剪定方法（通称：柔らかい剪定）を実施しています。一方、幹や太い枝を切り払い樹形を著しく小さくする街路樹の剪定方法（通称：強剪定）が、行われてきた街路樹もあります。



柔らかい剪定の緑陰は、適切な樹冠体積や葉面積密度が維持できます。そのため、強剪定の緑陰と比較して、街路樹の影が大きく濃く、地表面での日射量が減り、歩行者の暑熱環境が緩和されていることがわかっています。

※横浜市みどり環境局環境科学研究所と国立研究開発法人海洋研究機構の共同研究結果より

上：柔らかい剪定 下：強剪定

横浜の代表的な街路樹の歴史



横浜馬車道通り【横浜開港資料館所蔵】

近代街路樹発祥の地

横浜は日本の近代街路樹の発祥の地だと言われています。慶応3年（1867年）、馬車道の各商店が、店の前に柳と松の街路樹を植えたのが始まりです。

この並木は大正12年（1923年）の関東大震災で焼失し、現在では昭和52年（1977年）以降に植えられたアキニレに代わっています。



日本大通り

この道路は、慶応2年（1866年）に発生した横浜大火を契機に、防火対策として英国人H. R. ブラントンの設計により生まれました。

中央に車道12m、左右に歩道3mと植樹帯9メートル、合計道路幅員36メートルと言う、当時としては近代的で立派な道路です。

この時代の植栽は関東大震災に焼失し、復興整備により昭和2年から3年間をかけてイチヨウが植えられ、現在に至ります。



神奈川県庁日本大通【横浜開港資料館所蔵】

（平成23年景観重要木に指定）



横浜海岸通ニウグランドホテル【横浜開港資料館所蔵】

山下公園通り

横浜の代表的な公園、山下公園の前に続くイチヨウ並木です。

このイチヨウ並木も関東大震災の復興事業により昭和3年（1928年）から植えられました。この辺りは、倒壊した建物の瓦礫などを埋め立てた上に植栽されており、樹木が生育するには厳しい環境でしたが、今日では大きく生長し横浜の観光名所の一つになっています。

引用・参考リスト

1. 林将之. FIELD GUIDE 23 葉で見分ける樹木 補強改訂改訂版. 小学館, 2010.
2. 林 将之. 山溪ハンディ図鑑14 増補改訂 樹木の葉. 山と溪谷社, 2020.
3. 梅本浩史. 若木・成木・老木の写真で樹木の名前が必ずわかる 樹皮ハンディ図鑑. 永岡書店, 2010.
4. 公益社団法人 日本道路協会. 『道路緑化技術基準・同解説』丸善出版, 2016年. ISBN 978-4-88950-131-5.
5. 横浜市環境科学研究所・国立研究開発法人海洋研究開発機構 (JAMSTEC). 「横浜における都市の熱環境の改善に向けた研究 成果報告書」.
https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/machizukuri-kankyo/kankyohozen/kansoku/science/naiyou/heat/kyodokenkyu/gaiyo_houko_kusho.files/0011_20240123.pdf
6. 横浜開港資料館. 「横浜開港資料館公式サイト」.
<http://www.kaikou.city.yokohama.jp/>

樹木解説監修: 株式会社 農村・都市計画研究所、清右衛門

横浜市街路樹ハンドブック

横浜市

道路局施設課

みどり環境局環境活動事業課・戦略企画課

令和8年3月

